インフルエンザワクチン接種のご案内

- ・インフルエンザの予防には、予防接種が有効です。
- ・予防接種は、インフルエンザにかかりにくくしたり、 かかっても症状が軽くてすみます。
- ・高齢者・小児(その方たちをお世話している方)は、 予防接種をおすすめします。





予ンい

軽ザ



発行責任者 隠岐広域連合立 隠岐病院長

隠岐の島町城北町

もいすし重気て さ予 た症管い高接 予る 防方まほ化支る齢種 い約 たうを喘慢者 制 接 お右が防息性 で 種 裏す 世記いぐをの施 を たも病設 お話の 面-の にで、 を方 めつ気な す しととに小をどい 掣 て同思予児持に 連 す めい居わ防なつ入 記注

ま方てま種は

し た ほ う V しるしれ接ど方居

くにそ防フたこ てる合症ご炎えはイ すかう接ルめれい死併 t くがて みかす種エのら ま亡症あまあい高 まっれす すのはげれりる齢ル ン対の たとし たとして たとで たとで たとで たとで たとで 大イらにま人者エ きンれ併 すがやン 併心ザ なフま発 行しを 原ルす 7 す ま発臓合 っす。 因エ るたしに併 ₽ て併 す 症ル るは発 ンこ脳乳や持症 もザれ炎幼す病と 状エ 前 `し がン にイな なにらや児いをし

ま広をたか⑤ しがつらぜ流 `に行 よりけ うを感マか期 防染スかに ぎのクっは

事 意

あく



よ 適 ④ う度室。に内 保の ち湿 ま度 しを

いしうひスの③ をつがとの奥口 しかいつ上はの 、中 まり液で陸 しとをす地ウや よう使 点イの うがい、 のルど





洗し② いっ石 まか鹸 しりを よと使 う手い、



し体適の眠① よ力度とをし う維なれと 0 持運たり に動食べか 努を事ラ لح め続と ス まけ

つよの脳が肺抱て



かぜ予 防のポイント

インフルエンザの 予防の一番はワクチン接種です

☆隠岐病院では、全ての方を対象にインフルエンザワクチン接種の予約受付中

インフルエンザワクチン接種については、ワクチンの数が足りなく予約制限など 行ってまいりましたが、このたび、どなたでも接種できるようになりました。流行期は まだまだ続きます。ワクチン接種で乗りきりましょう。

<接種料金>

新型インフルエンザ

大人(13歳以上)1回目 3,600円 小児(13歳未満)1回目 3,600円 2回目 2,550円

季節性インフルエンザ

大人(13歳以上)1回目 4,000円 小児(13歳未満)1回目 3,000円 2回目 2,500円



<予防接種の予約申し込み>

電話でのお申し込み 2-1356(平日14時~16時) 直接のお申し込み 医事窓口又は、地域連携室 日程等わからない事がありましたら予約時にお問い合わせ下さい

ひろげるな インフルエンザ、 ひろげよう 咳エチケット

- 咳・くしゃみの際にはティッシュなどで口と鼻を押さえ、周りの人から顔を そむけましょう。
- ○使用後のテッシュは、すぐにフタ付のゴミ箱に捨てましょう。
- ○症状のある人はマスクを正しく着用し、感染防止に努めましょう。



炎おル中 スでノ き感 小ウ 起染世さイ こし界した中 ス くをウ 急分しイ 性布たル 胃しウス 腸てイの

りるにの感 こととの原因 汚原染こ て の時季、注意がなります。発生は、このウイルスは、 ことから食品をなった食品を る 毒 必傾冬の食が感 向か原べ 染人 にら因てウ性か あ春と感イ胃ら りにも染ル腸人 、かなすス炎に

が

(1) 十潜症 八伏状 時期は 間間? では、 す。 通 常二 + 匹 5 四

2 度下主 で痢な 日 っす。 腹 え 状 は いこ 痛は たれで いあり、 回 症 復しま 状 発 が熱嘔 一は吐 〜軽、

(3) 場合感 や染 も軽し て 11 カい ま ゼ 7 のもよ発 う症 な し 症 な 状い の場



① に 汚染され ょ どう る感染 に 口 ウ 加 熱れの経 1 に た り で す。 に り 類 て ・ルス ルスの感染する ほの でを とん 食 生 こんどに 心染力 ベ ま た場は 経は 合十 口強

を

家 場人の人 の糞と庭手便人や 合の糞 をやが共 介吐接同 物触生 てをす活 処る施 次理際設 いや、 はする際に などで、 たに者

3 さお調 れり理た、に た 食そ従 品の事 を手し 食指た べを人 た介が し感 て染 汚し 染 7

理

す状排月一ど が泄程週のこ 改が度間症の 善 続 程状ウ した後、 糞便の 大なく、 大なく、 もが中いなは 注あにとっ 下 ス一通吐 で症のケ常な

> 予 防

し想イ状こさは ょ定ルがとれ見ウ ル 、せスは 場所にはとて 善触イも しれル てス いに < る汚目 染に

1 必十食がウグ 要で度るりルンキは 要なあるのか。 要をあるのか。 へるように、かります。、イルスを取り、ホタテ は、 を タシよ 取テジく 分以というなどのようなどのという。 のだ熱でニサして かんしん

2 で 最とに す F 重か 要 < のイ で、 手 お前レ を 0) 有洗 効 う な予 防 方 法

効いよ流処吐つ調後でやる水理物を理、 やる水理物交う厳・のや換 う厳・のや換の食が重石後下の前事 いなけな痢後、が手んど便、 有洗ににの嘔む

さな 子 供 が ٧١ る家 庭 で は う。 感染防止対策を行いま排泄している」ことをわれていない場合もウ症状が改善した後、症場所に触れている」

で度 す。C、

然熟」が これ。「八 ること い。「八 のこと

よ度 理 一は、分、 器 分数数 具 (など) 上湯 加で 熱 熱しまれ

し五

☆ ーサップに %庭用 具 消 用 ,る(O. を入れ、 塩 素 軽の汚 系 糸漂白部ペットペット ペ物 0 水 二 で 「一杯の市トボト 剤のボ用 ッ濃販ル ト度のの

百一市卜五汚 家 ヤ IJ 庭 ツ品トの ツ 用 を入 プ ル 塩 に にル消 素軽の毒 す くべ用 系 水漂三 ツ で白杯ト五剤のボ

すい普 を段 習か 5 慣 づけ 便 とることが後や食事: 後 が前 重の 要手 で洗

まパオ手] ルを ・タオル を洗っ ・シオル ルなた でく後 ९ँ 手 を使 拭 い備 < 捨え ょ て付 うのけにぺの

| タ

3

果系塩わん C加が漂素せで消消 以熱の角かとは、一番を入れる。日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を、日本の一を 希 す リはイタ 釈ウでルノ レム きスー た(まのルも家せ感や の) λ 染逆 力性 は塩次を石 効素亜失け

ル五家キニ する

4

。 イ者

ビ取り散ル雑 ニりとら等巾 に拭なで ル使きい吐タ つ取よ物オ う・ル `下~ 入雑 れ巾と静痢ペ て ・でか便 | タすに等パ 。しがし 封オ しル拭っ飛タ はきかびオ

行う使んルは、期。っをエ、

乗しうつザ

を正た使ン手口

りいがた予いイ

ル

ス

す感

。染

、ねでの

切知い手防が

り識を洗も一

まを習いか番

よに付うて

うつけが薬

けまい用イ予

てし薬石ン防

流ょをけフに

身慣

し手防処 あをのを 3 と着為、 さ も用 れ す マる 必るス方 ず クは 手手. 洗袋使 いをい自 をは捨分 その他:長靴やエプロン しず ての

理ばでで取はルっいは 感下無り十スたま 染さ防の分なだすウ染吐 必がい備際なのけ 。のに注で でわル 容ずス はが但方も意 しは飛がそ易かが 絶沫必のにな大 放対が要処感量量 速置近発で理染がに やしづ生すにす体含下理 かてけす。つる内ま痢 におなる拭いウにれ便 処けいのきてイ入てに

> 毒し白にの素そ煮場破 る 方 く含をた白 毒 そ 法 のせい所で またまを あ ま布す中吐 ま放 。心物% で す

で素しけ類はし痢嘔 ち消み毒 「系たて た便吐 等 つ漂後水と他衣の物 け白 洗はの類付 置剤塩い分衣等着

所んな も衣 ること 消類 毒や が雑 が 必巾 有 を 効 で水洗 です い



すば剤消あ系の沸合棄 らを毒っ漂後消はし て ま行場剤0し水下 て洗さ 0 くいい だ後~ さし破 置覆塩にや家いっ棄 でかし つ 素 下 庭 て系広痢用 りな

漂め便塩

0. 1%消毒液 0. 02%消毒液 使用 おう吐物・ふん便 調理器具・床、トイレのドアノブ・便座・衣 場所 類の消毒(汚染の強い場 所) 作り方:例 ペットボトルのキャ ペットボトルのキャッ 次亜塩素酸汁 ップに軽く3杯の次 プに軽く2杯の次亜塩 リウム 亜塩素酸ナトリウム 素酸ナトリウム液を入 約5%液 液を入れ、水道水で れ、水道水で21に希釈 し使用します (家庭用塩素 500m1に希釈し使 系漂白剤) 用します。

ペットボトルの蓋の容量は、5mlです。原液が手に付かない様に、ここでは、軽く3杯 (10ml)" 軽く2杯 (8mi)"と表現しています。

な頭来き行てがっ きおあて今 しる ع 0 て りり千年 力かい考ま ま里はあ るえたーす還寅と がにそ ら戻日 る年が んなうれっの虎 でき で て間はとす ばら 7 す いくに行い Sよはにが道優わ里 う 由でをれざ往

ほ努に予密島ま根 力は定な根す ょ と連大が学成し医五ししの た負な携学 カュ し担っを泌引ら十すのま毎 くまをて取尿きの二 おおり器続派年 す のかりな科い遺四 願 でけまがにては月 しすら属川終かな。引し崎了ら ごな ま 理い患き す て先いは 解よ者継 生た

のう様ぐ緊がし島

い当かみり先月療方り 十をにま泌 大平た院らとま生 月 \equiv ま師時 た応日け て器 援よ て回かの 泌で週当も り まのら常 尿行水面い五い応 器い曜はた箇 り援島医 だ診 ŧ 科ま日 を根師 すの予く 診 療し得 大が 療。午約こ所たな学不 もま後診とのががの在 療 、 ら先と 二療と川 時のな崎一診生な 続

お

2 W

毒液(次亜塩素酸ナトリウ

ム溶液)の作り方